

タイトル	<i>The Missing Piece</i>				
著者（文・絵）	Shel Silverstein				
出版年	1976	出版社	Harper Collins		
翻訳版	『ぼくを探しに』 倉橋由美子訳、講談社、1977年				
総語数	609語	ページ数	112ページ	YLレベル	2.3
あらすじ					
<p>一見パックマンのような形をした主人公が自分の missing piece（足りないかけら）を探して旅をしていくお話です。旅の途中、主人公は様々な「かけら」に出会いますが、大きすぎではまらなかったり、小さすぎて落としてしまったり、強くつかみすぎて壊してしまったりと、ワイルドすぎたり、拒絶されたりと、なかなか自分に合った「かけら」が見つかりません。しかし、ある日ぴったりとフィットする「かけら」に巡り会います。1つの円として完成した主人公は狂喜乱舞しますが、勢いがつきすぎて今度は虫と話したり、花を愛でたりする余裕がなくなってしまいます。それに気づいた主人公は、立ち止まってその「かけら」を手放し、再び新たな「かけら」探しの旅を続けるのです。</p>					
紹介					
<p>この作品は、米国の作家 Shel Silverstein (1930-1999)によるものです。サインペンでさっと落書きをしたようなイラストで、パックマンのような姿の主人公がすべてのページに連続する線（地上）の上をゴロゴロと回転しながら、様々な出会いを経ながら進んでいくシンプルな構成ですが、そのシンプルさの中に深い問いかけがあります。</p> <p>様々な解釈が可能な作品ですが、私は「かけら探し」の旅を自分に合うパートナーを探す過程という読み方をしました。いろいろな性格の人に出会い、拒絶されたり、うまくいかなかったりと出会いを繰り返しますが、あるとき自分にぴったりの人に出会い有頂天になる。しかし二人の世界で完結してしまった結果、今度は周りが見えなくなってしまったことに気づき、再び一人に戻る、という解釈です。一方、倉橋由美子氏訳の邦題は、『ぼくを探しに』となっているので、自分探しの旅と読めます。他にも、自分に合う仕事探し、夢探しと読むこともできるでしょう。そのため、ある程度人生経験のある大人が読んでこそ味わいのある絵本と思われれます。とはいえ、逆に子どもがこの作品にどんな反応を示すのか試してみると大人とは違った面白い発見がありそうです。</p>					
指導ポイント・授業活用例・学生の声など					
<p>【注意すべき英語表現ほか】</p> <p>主人公は鼻歌交じりに旅をしているため、口語表現、掛け声のようなフレーズが繰り返し出てきます。</p>					

- 音声の省略 ing → in' (ing よりもくだけた発音)

I'm lookin' for my missin' piece

- 掛け声 Hi-dee-ho (hi-de-ho) 「ヤッホー」のような掛け声。

なお、ディズニーのアニメーション『白雪姫』に、小人たちが仕事帰りに“Hi ho, Hi ho”と歌う挿入歌がありますが、この Hi ho という掛け声にも似ています。日本語にも「よっこらしょ」という掛け声がありますが、「くたびれた」「さあ頑張ろう」というようなときに使われることが多いようです。

- 韻を踏んだ表現

So grease my knees and fleece my bees

まず grease one's knees は「潤滑油をひざに塗り込む」という意味なので、長旅に出る意気込みを表していると考えられます。Fleece my bees は grease one's knees に続く語呂合わせ（音遊び）です。無理に和訳すれば「みつばちの毛を刈り取る」という意味になりますが、この部分は倉橋由美子の訳では単に「ランランラン、ロンロンロン」と訳されています。

- 口にモノが入っていて発音が乱れてしまう例

うまく発声できず、以下のような発音（表記）になっているところがあります。

I've frown my nizzin' geez (I've found my missing piece)

Uf vroun my mitzin' breez (I've found my missing piece)

So kcrease ny meas (So grease my knees)

An bleez ny drees (and fleece my bees)

Uf frown... (I've found...)

- 文法事項としては、過去の習慣を表す would が前半繰り返し出てくるので、練習になるでしょう。

...the cool rain would come down. 「涼しげな雨が降ったものだ」

...the sun would come and warm it again. 「お日様が出てきて、また温めてくれたものだ」

...it would stop to talk to a worm. 「たちどまって虫に話したりしたものだ」

#### 【授業活用例】

授業では、この作品を音読した後、以下のようなディスカッションポイントについてグループごとに話し合うと理解が深まります。（「ワールドカフェ」（本 HP アクティビティ参照）の形式が有効。）

例)

- あなたにとって missing piece とは何ですか。
- 主人公は it で示されていますが、あなたは主人公を男性だと思いませんか？女性だと思いませんか？
- 主人公の人となりについて自分のイメージを語りあいましょう。

- この本に音楽をつけて読み聞かせをするなら、あなたはどんな曲を選びますか。
  - この作品の続編を考えてみましょう。
  - 日本語に訳して宣伝するとしたら、どんなタイトルとキャッチコピーをつけますか。
- 筆者のイメージ像を考えたあと、実際の筆者の経歴について説明したり、日本語訳案を実際の翻訳版と比較したり、続編として *The Missing Piece Meets a Big O* を紹介したりすると、この作品に対する学生の興味がさらに高まります。

【学生の声】 この作品を読みワールドカフェ形式で話し合い

「あなたにとって missing piece は何か」と質問すると実に多様な回答が出てきます。時間、お金、単位、彼氏彼女、髪の毛 (!) など、一見表層的な回答ですが、そこを出発点として、「今を大事にしよう」とか「人間だもの、失敗するよ」などと、この作品のエッセンスについて考えを深めていってくれます。

- 最初に読んだときはただのなくしたカケラを見つけたけどやっぱり必要なかった、で終わりだったけど、話して考えを共有するともっと深いところまで掘り下げられた。
- 世間の常識にとらわれないで、自分は自分らしくみたいなメッセージだと思った。
- みんなのイメージはぶっ飛んだものもあれば、確かに！と思うものもあって刺激になった。
- ずっと探し続けているほうがずっと楽しいと思った。
- 何事もあきらめず目標に向かって頑張れば報われると思った。
- 一見すると不幸なことや困難なことであっても、見方を変えれば幸せなことや楽しいことになりうるのではないかと思った。
- 日頃見落としがちなの小さなところにも素敵な出来事はあるんだよ、と筆者は伝えたかったのかなと思いました。
- この欠けた状態のことを個々の人の個性という。
- 人間であればココロのどこかに必ず欠けている部分がある。
- いざ欲望が満たされると自分の望んでいなかった結果ではなかったりする。

#### 関連作品・参考 URL

- *The Missing Piece Meets a Big O.* (HarperCollins, 1981)

続編もお勧めです。この作品の翻訳版は以下の2つがあります。

『続ぼくを探しに ビッグ・オーとの出会い』倉橋由美子訳、講談社、1982年

『はぐれくん、おおきなマルに出会う』村上春樹訳、あすなろ書房、2019年

- *The Giving Tree.* (HarperCollins, 1964) 本 HP 解説参照。

『大きな木』も同じ作家による作品です。シルバースタインのオフィシャルサイト (<http://www.shelsilverstein.com/about/>) の解説も参考になります。

備考
本稿の一部は大修館『英語教育』2019年4月号 (Vol.68, No.1) の口絵「絵本を探しに」[1]の原稿を大幅に改訂したものです。

(文責：小林めぐみ)